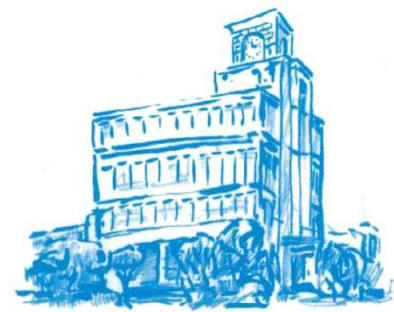


情報モラルを身につけよう

伊丹市立総合教育センター
所長 山下 拓志郎

5月31日、藤井聡太棋士が名人戦を制し、史上最年少7冠を達成されました。強さの秘訣は、日頃から人工知能(AI)を活用するとともに、未知の局面で考え抜く力を磨き続けていることです。情報技術の革新は生成AIが身近な存在となるなど、急速に進んでいます。



このような中、学校教育における「情報モラル」は、ますます重要性を増すとともに守備範囲も広がっています。例えば、生成AIによってつくられた文章をそのまま使うと著作権を侵害してしまうかもしれません。情報モラルが求められる内容や範囲が日々変化し、その対応にはキリがありません。このような時には、やはり本質に立ち返る必要があります。令和2年に文部科学省が作成した「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」には、『情報モラル=日常モラル+情報技術の特性』と示されています。

端的に言いますと、日常モラルには、「節度」「思慮」「思いやり」「礼儀」「正義」「規範」などが、情報技術の特性には、「公開性」「記録性」「信憑性」「公共性」「流出性」などが挙げられます。これらのキーワードを組み合わせながら、子どもたち自身が主体的に情報モラルにおける問題を解決できる力を身に付けていかなければなりません。

どのような場合であっても、人と協働する際には、必ず向こう側に、自分と同じ生きた人間がいることを忘れてはなりません。さきほどキーワードに「思慮」を挙げましたが、私は他者を慮る気持ちが最も大切だと考えています。そういう意味において、情報モラル教育を行う機会は、日常に溢れています。

情報モラル教育について学ぼう！

『情報社会で 適正な活動を行うための基盤となる考え方と態度』

具体的には、

- 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつ
- 犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用する
- コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解する

情報モラルとは

日常モラル



節度

- ・やりたいことを我慢する
- ・欲しいものを我慢する

思慮

- ・情報を正しく判断する

思いやり、礼儀

- ・適切なコミュニケーション

正義、規範

- ・情報社会のルールを守る
- ・正しいことを実行する

||
+

情報技術の特性



インターネットの特性

- ・公開性
- ・記録性
- ・信憑性
- ・公共性
- ・流出性

心理的・身体的特性

- ・夢中になってやめられなくなる
- ・非対面で自分の思いが伝わりにくいところがある
- ・不安になる
- ・感情的になりやすい

機器やサービスの特性

- ・いつでもどこでもつながることができる
- ・サービスの提供側からさまざまな勧誘がある
- ・無料であることをうたって利用を勧誘してくる

インターネット利用の実態

- 早期（幼児期）からインターネットを利用

0～6歳で68.1% 6～9歳で90.9%

- SNSや動画視聴の利用増加

動画を見る92.9% SNS利用 69.9%

- 「ネット依存」や「使いすぎ」が増加

1日あたり平均 4時間14分

- 知らない人とのやり取りが容易に

やり取りしたことがある 児童生徒 17.6%

日々の指導を心掛ける

情報モラル教育は、左記の日常モラルと情報技術の特性を組み合わせることで考えさせることが大切です。「日常モラル」については、日々学校生活で学んでいることであり、情報モラルもこれらの取り組みが基盤となります。インターネットの世界だからといって特別なのではなく、実際の生活の延長線上にあるのです。

実態として「情報技術の特性」を学ばずにインターネットの世界に飛び込み、トラブルに巻き込まれたり、トラブルを起こしたりしている児童生徒がいます。そうならないためにも、児童生徒の発達の段階に応じて、児童生徒が情報モラルの学習に主体的に取り組めるように学習を進めることが大切です。

そこで、次のページには指導上参考になる資料が参照できるホームページのリンクや、研修をご紹介します。

実際に指導する際に参考になる資料をみることができるホームページのリンクをご紹介します。



上手にネットと付き合いおう！安心・安全なインターネット利用ガイド(総務省)

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/



情報化社会の新たな問題を考えるための教材

＜児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き＞(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm



情報モラルのポータルサイト(文部科学省)

<https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/index.html>



小中高と系統だった情報モラル教育の推進(兵庫県教育委員会)

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/morallink/>



※動画視聴のためのパスワードは令和4年(2022年)12月にお知らせしております。



当センター主催の夏季研修のうち、情報関係の研修をご紹介します。

7/25(火)

10:00~12:00

授業力向上講座①

園田学園女子大学 教授
堀田 博史 氏

授業力向上(授業技術)とICT活用

7/27(木)

14:00~16:00

情報教育研修会

鳴門教育大学 教授
藤村 裕一 氏

ICT活用の方向性と効果的な
活用のためのポイント

8/4(金)

14:00~16:00

授業力向上講座⑤

鳴門教育大学 准教授
泰山 裕 氏

1人1台端末の活用による授業改善

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金：9:00~21:00
水・土：9:00~17:00
休館日 日曜・祝日・年末・年始
総合教育センターHP <https://www.itami.ed.jp>

<教育相談>

電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金：9:00~18:00
水・土：9:00~17:00

令和5年度連載 (ICT活用事例集)

第4回 小学4年生 社会 単元「兵庫大使になろう！」

ねらい

- 家庭でも協働的に課題解決に取り組む。
- 家庭でもチャット機能でやり取りすることを許可し、事後にその内容について指導することで情報モラルの力をつける。

活用効果

- 家庭でも協働的に課題に取り組むことができた。
- また、チャットでのやり取りについて教師の指導をすることができ、言葉遣いやメッセージの受け取り方などについて考えさせることができた。

